

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4010500069
法人名	医療法人 かん養生クリニック
事業所名	グループホーム こもれび
所在地	福岡県北九州市小倉南区蟠田若園3丁目4-10
自己評価作成日	平成24年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年9月28日	評価結果確定日	平成24年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街に位置し、近隣には鯉の泳ぐ川や公園が落ち着いた環境に恵まれた場所にあり、入居者様には以前と変わらない生活が送れるよう一人一人の希望にあった活動やリハビリを取り入れていきます。入居者様と職員は同じ場所で営む家族と考え、少しでも身近に感じて頂ける様接する事をモットーにしております。又、隣接の『こもれびⅡ』と合同レクリエーションを楽しんだり、お互い行き来出来、気分転換や楽しみを感じて頂ける様努めております。夜間の対応として、介護面の緊急対応の充実。医療面では、母体である(医)かん養生クリニックといつでも連携が取れるよう、24時間連絡体制にて対応しています。週1回医師による体調管理も行い医療面からのサポートも充実しており、より良い生活が送れるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った静かな住宅地の中にあり、同法人グループホームや小規模多機能型事業所、デイサービス事業所が隣接している。法人内の連携を活かし、春と秋に開催される「つどい」では、専門職による介護無料相談会も実施され、事業所の見学も含めてパンフレット配布の用意をしている。また、テーブルや椅子なども、町内会や公民館から借りるなど、地域の温かい協力を得ている。理念の中にある地域の方たちとの交流やふれあいを大切に、訪問しやすいグループホームを目指し取り組んでいる。日々の暮らしの中では、個人の尊重や、本人本位の心身の機能維持、活用に取り組み、その実践は、昨年同様の入居者の方々の豊かな表情からもうかがうことが出来る。畑作りの再開や、新たにウッドデッキも増設されており、地域や法人内の交流も含め、暮らしの活性化に取り組んでいる。入居者の方々の心情の変化に寄り添いながら、地域の中での存在を高めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同で意見を出し合った地域密着サービスの意義を踏まえた目標を理念に掲げ、職員通用口に掲示し実践に活かせるよう心掛けている。	4項目からなる地域密着型サービスとしての理念は、ミーティング等において確認や振り返りを行い、また、新規採用時には、理念の共有を重視している。「こもれび」という事業所名も、当事業所の雰囲気と重なる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や、週一回入居者も参加してもらい周辺の道路愛護活動を行っている。又、地域で行われている行事への参加も心掛けている。	春、秋の2回、法人内の連携を活かした「つどい」が開催されており、餅つきや屋台、健康相談会等が実施され、地域より参加を得ている。実習性の受け入れも積極的に行っており、入居者も来客を楽しみにしている。行事の際には、必要な用品を町内会より借りる事もあり、地域との連携、協力体制がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、実際のケアの様子を報告する事で、認知症の理解を得るようにしている。又、入所の検討をしている方の相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を添付し、実際の様子の報告を行い現状を報告して頂ける様努めている。談話形式ではあるも、貴重な意見と受け止め職員ミーティングの際伝えサービスの向上につながる様心掛けている。	運営推進会議は、隣接する同法人グループホームや小規模多機能型事業所と合同で定期開催されている。状況報告や意見交換を通じて、サービスの向上に活かしている。また、議事録は玄関のカウンターに掲示されている。玄関の施錠について話し合いが行われた経緯があり、今後も、家族や地域を交え、振り返りや確認の機会となることが期待されます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会主催の意見交流会を通し関係を築くようにしている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ており、日頃から、相談や情報共有を図っている。また、グループホーム協議会の意見交流会には、行政担当者の出席も得ており、意見交換の機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法の指定基準における禁止を十分理解し、ケアに取り組んでいる。玄関の施錠については「施錠してほしい」とご家族の希望は有るも、午前中は開放する事了解を得て、開放している。	年間研修計画の中に位置付け、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、職員の共有認識を図っている。家族や行政より、施錠についての要請はあるが、運営推進会議において、その弊害や取組方針について説明し、現在、午前中は施錠を行っていない。個別の時間の流れや心情の変化に寄り添い、抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム委員会として、月1回勉強会の時間を設けており、年一回虐待防止について学ぶ機会をもうけ再度確認を深めている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活支援事業や成年後見制度どちらも利用されている方がおり、情報提供を行っている。グループホーム委員会の中で研修を行い学ぶ機会を設け理解や知識を深めている。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方もおり、資料を整備し、情報提供を行っている。後見人を務める弁護士の方の定期的な来訪や、研修の機会を通じて、職員の知識や理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、十分時間を設け納得して頂ける様努めています。又、入居後に疑問に感じた事についても、その都度納得して頂ける様努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族が意見や要望を表しやすい様な良好な関係作り、及び雰囲気を作るよう心掛けています。又、入居時に公的な苦情相談窓口やご意見箱の設置について説明している。	運営推進会議の議事録を玄関カウンターに置き、訪問した家族の方が閲覧できる様にしている。「こもれび新聞」では、個別に毎月の様子を伝え、情報共有に努めている。家族が来訪する機会も多く、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各事業所責任者会議や、介護保険事業所会議に出席時、職員意見を提案し全体での検討を行っている。又、定期的に法人より担当者が訪問し、職員意見の収集を行っている。	月に1回、職員ミーティングが行われている。職員には事前に検討内容を考えてもらい、ミーティングの中で話合う事としている。また、法人より担当者が定期的に訪れ、職員の意見や要望などを聞く機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にスキルアップ、目標を持ち外部研修の希望には、勤務調整を行っている。又、福利厚生の一部として費用についても支援している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢・性別等特に制限は設けることなく、個々の能力ややる気を重視している。職員がお互いを尊重し、得意分野が業務に活かされ、充実して勤務出来るよう心掛けています。又、隣接するグループホームとの定期異動を行い質の向上や活性化への取り組みを行っている。	ホームとしての意向を踏まえ、法人としての採用となる。「人が好き」ということを大切に、年齢や性別による制限は設けていない。定期的に、隣接する同法人グループホームとの少人数の異動が行われ、活性化へとつなげている。資格取得や研修参加に向けたサポートも行われ、スキルアップを支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中に「お一人お一人の意見を最大限に尊重し権限を守ります」と掲げ、理念の共有・実践により人権教育につなげている。又、内部研修にて学ぶ機会を設けている。	グループホーム委員会として、年間研修計画に取り入れ、意識を高めている。外部研修に参加した際は、伝達を行っている。	

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時の研修については、経験等に合わせ期間や内容を変更している。内部研修としてはグループホーム委員会とし月1回学ぶ機会を設けている。外部研修へは、参加しやすいよう勤務日等配慮し、費用についても支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域包括支援センター主催のグループホームの交流会や、勉強会へ参加し向上するよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに、御本人様とお会いし、要望や不安等情報収集を行い、お一人お一人に合わせて柔軟な支援に努め、安心して入居出来るよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに、御家族様より要望や不安等情報収集を行うよう努めている。ご本人の前では話づらい内容は、日を改めるか、電話で対応、安心して入居出来るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の状況や現状のサービスの内容・困っている問題等情報収集を行い、御家族の了解の下、居宅、医療関係者の意見を含め対応するよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、コミュニケーションに機会を大切にし、洗濯・料理・食事を共に行い、趣味や特技を一緒に楽しんだり、教わることで支え合う関係が築ける様努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の出来度と等のご報告を行い、ご本人の為にどうしたら良いのか、相談や意向をうかがう様努めている。又、行事の参加を呼び掛け共に支え合う関係に繋がるよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、出来る限り馴染みの物をお持ちいただく様お願いをしている。又、生まれ育った場所の歌を歌ったり、慣れ馴染みの方が来所しやすい場の提供に努めている。	理念として掲げる「訪問しやすいグループホーム」を意識しており、家族や関係者の来訪を歓迎している。出身地の民謡や、懐メロを皆で歌ったりして楽しんでいる。	

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の入居者の表情や関わり合いから、関係性の把握に努めている。必要に応じ、職員が会話の橋渡しをする等、良好な関係が築ける様努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先へ面会・お見舞いへ行くこともあり、退所後も継続した関係が保てるよう努めている。電話にて現状の報告をして下さる事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、ご本人・ご家族の思いや意向が、ホームの暮らしの中で反映される様、日々の会話や行動から把握し、職員間で共有できるよう努めている。	センター方式を採用しており、入居時に家族の協力も得ながら、丁寧に情報収集をしている。入居者の方が、懐メロを口ずさみながら洗濯物をたたんでおり、そこに普通の暮らしの時間が流れていた。日々の会話や行動の中から、思いをくみ取る様にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、出来る限り馴染みの物をお持ちいただく様お願いをしている。又、生まれ育った場所の歌を歌ったり、慣れ馴染みの方が来所しやすい場の提供に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や会話等で心身の状況の把握に努め、変化が見られた時は、申し送り、記録により職員全員が把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を大切にし、ケアマネジメントを行い、毎月の職員ミーティング、モニタリングを通し現状に即した介護計画になるよう努めている。又、担当者会議に看護師の参加も有り、医療面からもサポート出来るよう努めている。	担当制をとっており、本人、家族の意向や、職員の意見を取り入れて、ケアマネジメントを行っている。モニタリングを定期的に行い、担当者会議では訪問看護師も同席している。センター方式を採用し、丁寧に情報を収集しており、介護計画に反映できる様に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個別のケース記録に記入し、犯かについては業務日誌に記入し状況の共有・把握がしやすいよう努めている。必要であれば介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、ご家族とも相談しながら対応するよう努め、取り組んでいる。又、身体的状況の変化については、母体より支援の応援により、多機能に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる夏祭りに参加させて頂いたり、ボランティアの来所や、消防訓練に消防署の協力を得ること等で、社会との繋がりを持ち、地域に根差した生活が出来るよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療法人より、週1回の往診にて健康管理を行っている。又、本人・ご家族の希望を大切にしながら、協力医療機関も含め適切な医療が受けられるよう支援している。	週1回、協力医による往診や、看護師による健康管理が行われている。他科受診については、家族による対応を基本としている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療法人より、週1日看護師が勤務しており、健康管理や状況把握を行っている。又、気付き等相談し指示を仰ぐ事が出来、早期に医療へ繋がるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、馴染みの物を病室にて使用して頂き、少しでも安心して頂ける様配慮している。又、医療連携の看護師の協力も得て、早期退院に向け病院関係者との情報交換を密にしている。退院時には、担当者会議を経て退院を迎えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を示し、ご家族の同意を得ている。現在事例は無いが、ご家族の希望を把握する為アンケート調査を行っている。事業所として出来る事、出来ない事を把握し、主治医、ご家族との話し合いにて方針を共有する。	入居時に、重度化や終末期に向けた指針を示し、説明を行うとともに、アンケート方式で意向確認を行っている。状況の変化に伴い、主治医を交え十分に話し合いを行い、方針を共有する様にしている。これまでに、看取りの行った事例はないが、医療連携体制の整備に向け、取り組んでいるところである。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、すぐに確認出来る所に貼ってある。又、救急救命の研修を行い、日常的に意識が持てるようにしている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・防災業者の協力を得て同法人事業所と合同にて、年2回避難訓練を行っている。緊急連絡網には、町内会長の協力も有り地域の協力も得ている。	年2回、消防署や防災業者の協力を得ながら、隣接するグループホームと合同で避難訓練を実施している。緊急時の連絡網には、町内会長の協力も得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権を尊重しプライバシーの保護には十分配慮対応している。排泄、食事時等、誇りを損なわないよう、状況に応じた声掛けや対応に努めている。	個別の時間の流れやライフスタイルを大切に捉え、入居者の方々の変わらぬ豊かな表情からも、個人の尊重や寄り添う関わりがうかがえる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人に合わせた声掛け、対応を心掛け、意思を尊重出来るよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の一日のスケジュールを設定してあるが、一人一人のペースに合わせ、可能な限り希望にそえるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る洋服をご本人の希望を優先し、一緒に選んでいる。又、定期的に美容師さんに来所して頂き、カットだけでなくカラーやパーマも希望される方は行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、味付け、盛り付け、配膳、後片付け等、個々に合わせ参加して頂いています。入居者と職員は同じ食卓で会話を楽しみながら食事をしている。	静かなBGMが流れる中、職員と共に食事をしている。自然にテーブルを拭いたり、コップを用意したりと、暮らしの中にある食事風景である。皆で会話しながら、それぞれのペースを尊重し、食後も余韻を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量を記録し、管理を行っている。こまめな水分摂取を促し脱水には十分気を付けている。又嚥下障害の有る入居者さんにはトロミを付け提供したり、食事の形態を変える等し提供している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じ、介助の方法を代え行っている。又、必要に応じて、協力歯科へ往診を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターン・間隔の把握に努め、カンファ等で検討し、定期的な声掛け誘導を行いトイレ内環境を整備し、自立した排泄が出来るよう努めている。	排泄チェック表を活用し、日々の状況や排泄パターンの把握に努めている。さりげない声かけや安心できる環境作りに努め、個別の検討を行いながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、植物繊維や乳酸菌を多く含む食材の提供につとめている。又、自然排便を促すよう、身体を動かす事を心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴は行っており、個々にとっては隔日の入浴となっている。ゆっくりした時間の中で、会話をすることを大切にしている。	毎日、入浴準備を行い、2日に1度の入浴を基本としている。ゆっくりと時間をとり、職員との1対1の時間の中で、会話することを大切にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操、散歩、レクリエーション、家事のお手伝い等、無理にならない様に、日中活動をして頂き、夜間の安眠に繋がるよう努めている。又、生活習慣や体調により休息して頂くよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的、副作用等いつでも確認出来るようにしている。薬の変更があった時は、業務日誌に記入し変化の確認に努めている。特に眠薬については、体内動態を把握するよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんの能力に合わせ、家事の手伝いをして頂き、生活歴や趣味を生かせる生活・レクリエーションにて気分転換を図り、楽しみを感じて頂けるよう支援している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別や少人数で散歩に出掛けている。又は、敷地内の花壇で花を摘んだり、畑で野菜を収穫する等している。普段行けない所へは、ご家族と相談し支援出来るように努めている。	周辺には鯉のいる川や田圃も残り、個別や少人数で散歩に出かけている。敷地内の畑作りも再開され、野菜を収穫したり、花壇の花を摘み、テーブルに飾っている。新たにウッドデッキも増設され、気軽な日光浴を行うことも出来る。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの能力に応じ、ご家族の了解の下所持されている方もおられます。又、所持されてない方も、預かり金よりご本人様にお支払いをして頂く等の支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される入居者さんは、ホームの電話を利用して頂き、ご家族と連絡を摂って頂いている。又、年賀状を入居者さんよりご家族にお出しする等している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは十分な広さと、気の質感が多用された室内空間である。又、天井も高く天窓からは、自然光が差し込み開放的な空間となっている。庭に咲いた花を飾り季節感を取り入れ、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	日本家屋の良さである木の質感を全面に出し、落ち着いた内装に仕上げている。天井の高い居間兼食堂では、向かいあった大きな白いソファや和室空間があり、それぞれの場所でくつろいでいる。ウッドデッキが増設され、庭を眺めたり、気軽な外気浴が可能となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファセットを設置、畳のスペースもあり、窓辺やリビング内に椅子を配置し、好きな所で過ごして頂けるよう、努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、安心して生活出来るように使い慣れた物を持ってきて頂ける様をお願いしている。又、家具の配置等、ご本人、ご家族と相談しながら、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	和室、洋室、洗面台付等、居室の間取りや配置は様々である。自宅より、ベットや家具等、本人が使用していた物が持ち込まれ、居心地の良い様に配置されている。カーテンもそれぞれ好みの物が掛けられ、個性ある部屋作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、歩行器・車イスの方も安心して生活出来るようになっている。又、共同トイレには、可動式の手すりを設置。居室トイレを含め手すりが必要と思われる際は、追加し自立した生活が送れるよう努めている。		